

前回中止になった悲しみを乗り越えて...



さくらフェスのみの〜れ実行委員会
委員長 **大場 瞬**さん

「若い世代の人たちがもっと
みの〜れに来るように、若者
が楽しめるモノを創りたい」
と語る大場さん。

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ No.57

柔らかな春のきざしを感じる頃となった。みの〜れ周辺も間もなくソメイヨシノが咲き誇り、辺り一面が桜色に染まるこの時期は、さくらのトンネルの下を散歩される方や芝生の上にお弁当を広げてお花見をする家族連れの姿も多くみられる。東日本大震災から一年。まだまだ不安や心配が残る中でもこうして季節は廻って来た。4月7日に四季の里芝生広場&四季文化館(みの〜れ)で『小美玉さくらフェスティバル』が開催されるといふことで、今回はさくらフェスティバルの実行委員長を務める聖倉地区にお住いの大場瞬さん取材する。

みの〜れを若い世代が集まれる場所にしたい。

大場さんはみのり太鼓のメンバーで今年の4月から大学4年生。数を重ねてきた小美玉さくらフェスティバルだが、大場さんが歴代の実行委員長の中でも最年少となった。

太鼓を始めたきっかけについて大場さんは「小学校2年生のときに4つ上のお兄ちゃんが太鼓を始めるといふことで見学に行くことになり、一緒について行った。そのときに「瞬も一緒にやっちゃおうか?」というお母さんの一声で太鼓を始めて早13年になります」と話す。

また、「小学校の時からずっと太鼓一筋だった。土曜日に練習があるので日曜日は充電の日に当てていた。体力作りのためにジョギングもする。趣味はアニメを見ることやパソコン。それから、コーヒーが好きで豆から買ってきて手動のミルでゴリゴリやっけてゆっくりコーヒーを落としたり、パソコンをいじりながら飲む

ことが大好きだ」といふ。

今回の小美玉さくらフェスティバルで実行委員長を務めることとなった大場さんは「実行委員長としてはもちろんのこと、20名の実行委員の一人として皆さんと一緒にいろいろなものをつくっています。おもしろいアイデアが出てきて凄いなと感じています。大学生なので時間を作ることができるので会議にも出席できる。実行委員としての集まりは月1回で、あとはそれぞれの部門で活動しています。一昨年、当日のサポートとして参加したときは、スタンブラーにたくさんの子どもたちやお年寄りが集まってくれてうれしかった。昨年のさくらフェスティバルは実行委員として参加していましたが、震災で中止になってしまいました。その残念な想いをバネに今年も沢山の人が集まってくれるようなさくらフェスティバルが出来たらいいと思います」と話す。小美玉さくらフェスティバルでは、たくさんのイベントを用意している。同時に当日お手伝いをしてくれるサポーターの方も募集しているとのこと。

たくさんの笑顔や歓声に出会うことができるはず!

大場さんにとってみの〜れは「とても温かく迎えてくれる。リラククスできる場所。リラックスしすぎてたまに会議に遅れちゃうんですけどね。今後もしの〜れのイベントがあるときは何かしら関わっていききたい。また、みのり太鼓のメンバーの一人としてみの〜れとずっと関わっていききたいと思う。今回の小美玉さくらフェスティバルの実行委員は20代の人たちがほとんどで若い世代の人たちが考えた企画。小さな子どもたちから大人まで楽しめる内容となっています。みんなが元気になってくれれば嬉しいですね」と話してくれた。

最後に「僕らの世代の人たちもたくさん集まってきてくれたらいいと思う。今回の小美玉さくらフェスティバルをきっかけに、みの〜れのことを知ってもらい、みの〜れに関わってほしい」と語る。みなさんもぜひ小美玉さくらフェスティバルに行ってみて夢や希望のたくさん詰まった春を感じてみませんか?

(藤田 佐知子)